

テーマは「**優しさ**」福祉について考えます。 優しさ通信NO. 1
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。

平成30年 **1**月の**優しさ**通信

障がい者の離職 定期訪問で防ぐ 厚労省 新制度

仕事や体調の悩み聞く

- ・厚生労働省は2018年4月、障がい者の職場定着率を高めることを目的に新制度。
- ・民間事業者の職員らが障がい者の自宅や勤務先を定期的に訪問し、遅刻や欠勤の状況などを確認して必要な指導を行います。
- ・職業訓練を受けるなどした障がい者を対象。「就労定着支援事業所」の職員は、1か月に1回以上、障がい者と会って仕事や生活の悩みを聞きます。
- ・障がい者1人当たりの支援期間は3年間。原則1割負担で利用できます。
- ・民間企業で働く障がい者は2016年6月時点で474,000人。13年連続で過去最高を更新。
- ・2018年4月には企業の法定雇用率が現在の2.0%から2.2%に引き上げられます。(2017年12月1日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



認知症で事故 行政が支援 損害賠償、家族の負担軽減

神戸市、給付制度を検討

- ・認知症の高齢者らが事故やトラブルで損害賠償を求められることを想定し、一部の自治体で本人や家族を経済的に支援する動きが出てきました。
- ・神戸市は交通事故などを対象に上限3000万円程度の給付金を検討。神奈川県大和市は保険会社と契約し、鉄道事故などを起こした場合に最大3億円の賠償金を支払えるようにしました。

国内に462万人 鉄道事故29件

- ・国内に認知症の人は2012年時点で462万人おり、2025年には約700万人になる見込み。
- ・認知症の人が絡んだ鉄道事故を調べたところ、2014年度は人身事故や踏切への立ち入りなどが29件。事故対応の人件費などとして120万円の損害が出た事例もありました。
- ・認知症の人が車を運転して起こした交通事故は、2013年～2015年の3年間で少なくとも216件ありました。

(2017年12月8日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

テーマは「**優しさ**」福祉について考えます。 優しさ通信NO. 2
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。

都道府県別の平均寿命 首位は男性 滋賀、女性 長野

2015年 最下位は男女とも青森

- ・厚生労働省は、2015年の都道府県別の平均寿命を発表。男性は前回調査(2010年)で2位だった滋賀が81.78歳で初の首位。女性は87.675歳の長野がトップ。
- ・平均寿命が最も低かったのは前回同様に男女とも青森で、男性78.67歳、女性85.93歳。
- ・全国平均は男性が前回調査よりも1.18歳延びて80.77歳、女性は0.66歳延び87.01歳。
- ・大阪は男性80.23歳で38位、女性86.73歳で38位。
- ・厚労省は、「滋賀は食塩の摂取量が少なく、喫煙者の割合も低い」と話しています。
- ・全国の死因別の死亡確率のトップは男女ともに「がん」で、男性は29.38%、女性は20.35%。

(2017年12月14日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

障がい者虐待 高止まり 昨年度 2520件

「施設職員から」増加

- ・障がい者への虐待の疑いで2016年度に全国の自治体などに寄せられた相談・通報の内、虐待に当たると判断された件数が2520件に上りました。
- ・家族による虐待は微減となりましたが、障がい者福祉施設の職員らによる虐待が増え、件数は高止まりしています。
- ・虐待を受けた被害者の数は3198人。職場で虐待を受けた人が減少し、2015年度と比べると3%減りました。
- ・父母など「養護者」による虐待が最も多く、件数は1538件(2015年度比3%減)。
- ・被害者が死亡したケースは5件でした。
- ・殴る蹴るなどの「身体的虐待」が964件で最も多くなりました。
- ・障がい者福祉施設の職員などによる虐待は401件(同18%増)で、672人が被害を受けました。過去最多を更新しました。
- ・職場の雇用主や上司による虐待があったと判断したのは581件(同2%減)。被害者は972人でした。

(2017年12月29日 日本経済新聞記事から抜粋引用)

 **老衰多いと医療費低く 介護費も増えず**

- ・老衰と診断されて亡くなった人が多い自治体ほど高齢者の1人当たり医療費が低くなる傾向。老衰死が多くても介護費に増加傾向はありませんでした。
- ・老衰死の自治体間格差は男性で最大6.8倍、女性で4.3倍に上りました。
- ・男性で最も高かったのは神奈川県茅ヶ崎市。女性も2番目の高さ。同市の75歳以上の1人当たり医療費は年間で約792,000円で、全国平均は約932,000円。
- ・男性で最も老衰の割合が低かったのは大阪府茨木市で、全国平均より7割少なくなっています。女性も全国平均の半分。医療費も全国平均を上回っていました。

| 上位 | 自治体 | 老衰の死亡率 (全国平均：死亡率100) | 後期高齢者の1人当 たり年間医療費 |
|----|-----------|-------------------------|----------------------|
| 1位 | 茅ヶ崎市（神奈川） | 210.2 | 792,089円 |
| 2位 | 市原市（千葉） | 186.3 | 739,809円 |
| 3位 | 四日市市（三重） | 178.7 | 825,860円 |

| 下位 | 自治体 | 老衰の死亡率 (全国平均：死亡率100) | 後期高齢者の1人当 たり年間医療費 |
|----|----------|-------------------------|----------------------|
| 1位 | 茨木市（大阪） | 30.9 | 1,066,621円 |
| 2位 | 寝屋川市（大阪） | 31.9 | 991,669円 |
| 3位 | 枚方市（大阪） | 36.7 | 951,947円 |
| 3位 | 吹田市（大阪） | 36.7 | 1,019,148円 |

※老衰 5番目の死因、昨年9万人超

- ・全身の機能が老化によって衰弱した状態。
- ・2016年に亡くなった約1,308,000人の死因別では、「癌」が約373,000人（28.5%）で最も多くなっています。次いで「心疾患」の約198,000人（15.1%）、「肺炎」の約119,000人（9.1%）、「脳血管疾患」の約109,000人（8.4%）の順。「老衰」は約93,000人（7.1%）で5番目の死因。

（2017年12月25日 日本経済新聞記事から抜粋引用）



長生きの秘訣 運動・絆・医療

転倒しない体づくり 地域とのつながり 医師や介護職連携

- ・脳を働かせ、体幹などを鍛えることが転倒予防につながります。
- ・人々との絆が強いほど健康になります。周囲への信頼感が低い地域は要介護になる人が1.7倍多くなっています。

（2017年12月25日 日本経済新聞記事から抜粋引用）

テーマは「**優しさ**」福祉について考えます。 優しさ通信NO. 4
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。



今月の福祉用具－移乗関連用具

その2 移乗動作で使用される用具2

移乗ボード

- ・移乗者を寝姿や座っている状態のまま移乗させることができます。
- ・材質は硬いものとやや柔らかいものがあり、主としてベッド⇄車いすの移乗やベッド⇄ストレッチャーの移乗に使われます。

①ベッドから車いす、車いすからベッドへの移乗

- ・使用できる車いすは、フットレストやアームレストを取り外す必要があります。
- ・安全を確保するためにはボードの両端 15cm がしっかりと支持されていることが必要です。
- ・橋渡しをする隙間は 10cm 以下にします。
- ・車いすの車輪が邪魔にならないように、車いすを少し角度をつけるようにベッドの脇に置きます。
- ・ベッドはマット面が上下できるものであれば、車いすの座面の高さを同じにするか、ベッドから車いすに移乗する場合には、ベッドのマット面を車いすの座面よりもやや高めにし移乗面を斜めにするとうちとたやすく移乗ができるようになります。
- ・車いすからベッドへの移乗では、逆にベッドのマット面を車いすの座面より低めにするとうち移乗しやすくなります。
- ・介助が必要な時には、介助者は後方から移乗者の体を横方向にずらすか、前に立って介助者のベルトを持って移乗することができます。

②ベッドからストレッチャー、ストレッチャーからベッドへの移乗

- ・移乗者を横向けに寝た状態にして、移乗ボードを 2 枚使用し円盤状の移動部に体をその上に乗せて移動させる方法と、移乗者を横向けに寝た状態にして、シートを体の下に敷きこむものがあります。いずれも介助者にあまり負担をかけないで移乗することができます。

(参考：福祉住環境コーディネーターテキスト&福祉用具専門相談員研修用テキストより)

